
平成２２年第３回南丹市議会９月定例会会議録（第５日）

平成２２年９月２４日（金曜日）

議事日程（第５号）

平成２２年９月２４日 午前１０時開議

- 日程第１ 議案第６８号から議案第７５号まで（委員長報告～表決）
- 日程第２ 議案第８６号（提案理由説明～表決）
- 日程第３ 意見書案について（質疑～表決）
- 日程第４ 閉会中の継続審査並びに調査申出について
- 日程第５ 議員の派遣について
人権擁護委員候補者の推薦について
-

本日の会議に付した事件

- 日程第１ 議案第６８号 南丹市過疎地域自立促進市町村計画の策定について
(市長提出)
- 議案第６９号 平成２２年度南丹市一般会計補正予算(第２号) (市長提出)
- 議案第７０号 平成２２年度南丹市国民健康保険事業特別会計補正予算
(第２号) (市長提出)
- 議案第７１号 平成２２年度南丹市老人保健事業特別会計補正予算(第１号)
(市長提出)
- 議案第７２号 平成２２年度南丹市介護保険事業特別会計補正予算(第２号)
(市長提出)
- 議案第７３号 平成２２年度南丹市簡易水道事業特別会計補正予算(第２号)
(市長提出)
- 議案第７４号 平成２２年度南丹市下水道事業特別会計補正予算(第２号)
(市長提出)
- 議案第７５号 平成２２年度南丹市後期高齢者医療事業特別会計補正予算
(第１号) (市長提出)
- 日程第２ 議案第８６号 固定資産評価員の選任について
- 日程第３ 意見書案について
- 日程第４ 閉会中の継続審査並びに調査申出について
- 日程第５ 議員の派遣について
人権擁護委員候補者の推薦について
-

出席議員（２２名）

1 番 山 下 秋 則	2 番 木 戸 徳 吉	3 番 林 茂
4 番 大 町 功	5 番 今 面 不 悖	6 番 森 為 次
7 番 川 勝 眞 一	8 番 山 下 澄 雄	9 番 川 勝 儀 昭
10 番 松 尾 武 治	11 番 谷 幸	12 番 廣 瀬 孝 人
13 番 矢 野 康 弘	14 番 橋 本 尊 文	15 番 森 嘉 三
16 番 仲 村 学	17 番 村 田 正 夫	18 番 仲 絹 枝
19 番 高 野 美 好	20 番 大 面 一 三	21 番 井 尻 治
22 番 小 中 昭		

欠席議員（なし）

事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	勝 山 秀 良	局 長 補 佐	今 西 均
係 長	西 田 紀 子	主 査	長 野 久 好

説明のため出席した者の職氏名

市 長	佐々木 稔 納	副 市 長	松 田 清 孝
教 育 長	森 榮 一	総合政策担当部長 兼総合政策室長	大 野 光 博
総 務 部 長	上 原 文 和	企画管理部長	井 上 修 男
市 民 部 長	西 村 良 平	福 祉 部 長 兼福祉事務所長	永 塚 則 昭
農 林 商 工 部 長	神 田 衛	土木建築部長	山 内 明
上下水道部長	和久田 哲 夫	教 育 次 長	東 野 裕 和
会 計 管 理 者 兼 出 納 課 長	小 寺 貞 明	八 木 支 所 長	川 勝 芳 憲
日 吉 支 所 長	榎 本 泰 文	美 山 支 所 長	小 島 和 幸

午前１０時００分開議

○議長（井尻 治君） 皆さん、おはようございます。

ご参集、ご苦勞に存じます。

ただいまの出席議員は、２２名であります。定足数に達しておりますので、これより
９月定例会を再開し、本日の会議を開きます。

それでは、ただちに本日の日程に入ります。

日程に入るに先立って、報告いたします。

仲絹枝議員から、９月７日の一般質問における字句の訂正の申し出がありました。議員からの申し出は、会議規則第６５条の規定により、議長において許可することといたします。なお、字句等の訂正については、議長において対処いたします。

以上で、報告を終わります。

日程第１ 議案第６８号から議案第７５号まで

○議長（井尻 治君） それでは、日程に入ります。

日程第１「議案第６８号から議案第７５号まで」を一括して議題といたします。

これより各委員長の報告を求めます。

村田総務常任委員長。

○総務常任委員長（１７番 村田 正夫君） 総務常任委員会に付託をされました議案第６９号、平成２２年度南丹市一般会計補正予算（第２号）及び議案第６８号、南丹市過疎地域自立促進市町村計画の策定についての２件につきまして、審査の経過概要と結果を報告いたします。

９月１０日、午前１０時より協議会室において総務常任委員会を開催。総務部、企画管理部、教育委員会の順に所管の議案について審査を行いました。

総務部におきましては、議案第６９号について審査を行いました。最初に活性化基金について、なぜ、今なのか。もっと早くやるべきではなかったか。また、合併のメリットと謳われた特例債の活用について質疑がありました。あと６年しかなく、上限２４億を踏まえれば、今から始めるべきで、将来に備えたいとの認識と、過疎債と並んで活用すべき起債との答弁がありました。

法務局局舎の改修については、活用方法と中古物件への懸念が出されました。手狭な本庁の改善を来年４月の組織改変に併せ実施、近くて便利な条件を活かし、分散の弊害も部署の選択で最小限にとどめたいとの答弁を理解しました。続いて、毎定例会での報告をお願いした京都地方税機構の近況報告を税務課長より受けました。

さらに全員協議会で説明を受けた中期財政計画について、議案と関連し、詳細説明を求めました。財産収入が担当の室を新設したにもかかわらず少ない点や、事業費減と人件費の整合性、総合振興計画の実施計画と財政計画が連動しているのかなどの質疑がありました。細部には触れませんが、課題の残る財政計画であると指摘をしておきます。

次に、企画管理部に移り審査を行いました。職員や管理職の研修、適正職員数、定年について質疑がありました。８月に二日間、話し方教育センターによる職員研修を実施したこと。４２７人が当面の適正職員数であること。５８歳役職定年を申し合わせていることなどの答弁を受けました。人事全般を所管する担当課の現状把握とその分析、さらには、中長期計画における腰を据えた説明責任と対応を求めています。

また、ケーブルテレビのＣＳが中止になる経緯の質疑がありました。契約しているジャパンケーブルキャストが、２３年３月末で地上回線へ移行することは想定できなかった

た。また設備に多額の改修費が必要で利用料金に跳ね返るため、スカパーに移行する調整をしているとの答弁を受けました。

次に、今回、策定された過疎計画について、過疎自立促進法と合わせ詳細説明を受けました。新しく就任をされました企画管理部長は、主産業である農林業を守る手立てと流出した人口をどう戻し、定住促進を図っていくかが重要との認識を聞かせていただいたところでもあります。その後、質疑に移り、厳しい過疎の現状認識、過疎法の本質のとらえ方、みなし過疎のとらえ方、新しく加わったソフト事業の取り組みなどが出されました。それに対し、過疎化は緩やかにはなっている点。過疎法に謳う活力の低下や生産基盤・社会基盤の低位にある地域への特別措置を目的としている点、府下唯一のみなし過疎地域とされる人口要件など、四つの要件。デマンドの試行運転を来年度から始めるなどのソフト事業への取り組みが答弁されました。併せて、後期5年間の実績を資料を添えて報告され、その効果の検証が俎上に上がり、議案の審査をより深めるために、全会一致で15日の予備日を当てて現地視察を行うことが決定をされました。15日は午前10時から午後4時まで、旧4町の移動通信施設2カ所、除雪車2カ所、消防ポンプ1カ所、弓立牧場、殿田小学校、市道5線、農業用道路を2線を現地視察いたしました。まさに百聞は一見にしかずで、それぞれの過疎対策を実施した背景が読み取れました。特に、旧美山町と旧日吉町の悲惨なまでの現状と、その対策のための地道な底上げの対策は、過疎対策があつてこそ今の現状があるとの感想を持ちました。一方、合併後、4年間の中で旧園部町と旧八木町に実施された対策についても、みなし過疎地である現実を直視し、定住促進や周辺地域の活性化に目を配り、併せて、南丹市全体でとらえていく視点の必要性も感じました。視察ののち、全員協議室で委員会を再開、午後6時の閉会まで、さらに突っ込んだ審査を行いました。過疎法の本質は自立促進に導くものであるとの答弁をはじめ、過疎債と合併特例債はそれぞれ認識している。道路も線だけでは判断できない。財政健全化のため、過疎債は年間、5～6億程度にしたい。内ソフト事業は1.4億円を想定しているなどの答弁がありました。南丹市にとって、過疎対策の根拠法である過疎法は、その理念と目的において、揺るぎのない歴然としたものであります。まずは、それをしっかり押さえ、変わることをない基準とすることは第一歩です。次に、過去の実績とその効果を検証し、南丹市全体の現状認識とその進むべき方向性との整合性が求められます。みなし過疎地であることも直視しなければなりません。しかし、質疑の中で出たように、市街化調整区域に過疎対策を講じたり、財政運営の効率化の中で利用することは、どんな理論をもってしても説得力あるものにはなりません。したがって、過疎債と合併特例債をどう活用し、財政を運用していくかは今後の大きな課題といえます。以上、二日間にわたって審査を行い、質疑を終結いたしました。反対討論はなく、1件の賛成討論があり、本来の過疎地域を優先しての事業執行と良識ある過疎債適応を求める内容でありました。その後、表決に移り、過疎計画に示された基本的な方向は良とし、全員賛成で可決となりました。

最後に教育委員会ですが、学校給食の委託について、献立や場長の主体性、偽装請負の疑いはないか、などの質疑が出され、それぞれの確な答弁がなされました。

続いて、八木公民館の改築、私立幼稚園の基準変更、陸上競技場の管理の入札についてなどの質疑があり、それぞれ答弁がありました。

以上で質疑を終結し、議案第69号の一般会計2号補正は暫時休憩ののち、総務部長と企画管理部長が加わり、討論に移りました。特に討論はなく、表決に入り、全員賛成で可決をされました。

以上、今定例会の総務常任委員会の委員長報告といたします。

○議長（井尻 治君） 続いて、小中産業建設常任委員長。

○産業建設常任委員長（22番 小中 昭君） 産業建設常任委員会に付託されました議案第69号、議案第73号、議案第74号、以上3議案につきまして、審査の状況と結果について報告をいたします。

本件につきましては、去る9月13日に常任委員会を開催し、審査を行ったところでございます。

まず、議案第69号、平成22年度南丹市一般会計補正予算（第2号）であります。今回の補正は、市長の政策実現に向けた取り組みと、南丹市独自の地域経済対策や事業精査による組み換えなどが主なものであり、地域経済対策費としては、第6款農業水産費の農業費では、農道舗装の補助金など、第8款土木費の道路橋梁費では、市道の舗装改良など11路線、同じく住宅費では、市営住宅の農業集落排水への接続などであります。農林商工部での主な質疑は、共に育む「命の里」事業の内容についての質疑があり、平成21年度から開始されている事業で、その中の営農基盤事業であり、担い手が不足している集落を含む複数集落が連携をして、営農基盤を計画を策定するものであり、今回は美山の2組織に農業機械の購入費としての補助である。共に育む「命の里」事業には、今回の営農基盤のほかにも、里力再生事業、生活環境基盤、農業生産基盤、特別支援事業などがあるとの答弁がありました。

次に、池ノ内の調整池の今年度の施工開始の予定はとの質疑があり、繰越事業であり、年度内にできれば発注したいとの答弁がありました。

土木建築部での質疑は、市営住宅の城南町団地の除却についての質疑があり、8棟の除却を21年度から3ヵ年計画であったが、入居者のご理解や地元要望などもあり、今回の補正で今年度にすべて除却するとの答弁がありました。

答弁ののち、討論もなく、採決の結果、全員賛成により、議案第69号、平成22年度南丹市一般会計補正予算（第2号）は、可決すべきものと決しました。

次に、議案第73号、平成22年度南丹市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）並びに議案第74号、平成22年度南丹市下水道事業特別会計補正予算（第2号）、以上、2議案は質疑、討論もなく、採決の結果、全員賛成により可決すべきものと決しました。

以上、誠に簡単ですが、産業建設常任委員会に付託されました議案の審査の経過と結果

の報告といたします。

○議長（井尻 治君） 続いて、仲村厚生常任委員長。

○厚生常任委員長（16番 仲村 学君） それでは、厚生常任委員会に付託されました5議案につきまして、審査の状況と結果について報告を申し上げます。

厚生常任委員会は、去る9月14日に委員会を開催し、市民部、福祉部の順に所管のそれぞれの議案について慎重に審査を行いました。

まず、議案第69号、平成22年度南丹市一般会計補正予算（第2号）については数多くの質疑が交わされました。主な質疑といたしましては、府補助金の内容、保育所の改修、高齢者世帯の除雪対策、子どもへの子宮頸がんのワクチンの予防接種などであります。質疑、答弁ののち、討論はなく、賛成全員により可決すべきものと決しました。

次に、議案第70号、平成22年度南丹市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）については、賦課状況や予防検診の受診状況、また滞納状況などの質疑があり、特に滞納については悪質なものを除いて分納など、話し合いで解決を目指しているとの答弁がありました。質疑、答弁ののち、討論はなく、賛成全員により可決すべきものと決しました。

次に、議案第71号、平成22年度南丹市老人保健事業特別会計補正予算（第1号）は、質疑、答弁ののち、討論はなく、賛成全員により可決すべきものと決しました。

次に、議案第72号、平成22年度南丹市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）については、介護認定の状況や包括支援センターについて質疑、答弁があり、討論はなく、賛成全員により可決すべきものと決しました。

次に、議案第75号、平成22年度南丹市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）については、質疑、答弁ののち、討論はなく、賛成全員により可決すべきものと決しました。

以上で、厚生常任委員会に付託されました議案の委員長報告とさせていただきます。

○議長（井尻 治君） 以上で、各常任委員長の報告が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

特に質疑ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（井尻 治君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告に基づき、発言を許します。

10番、松尾武治議員。

○議員（10番 松尾 武治君） 皆さん、おはようございます。

過疎地域自立促進特別措置法の6年間の延長に伴い、今回の計画が議会の審議に付託されました。この法律の目的を再確認しますと、過疎の定義が示されております。過疎

とは、集落・離島などにおいて、人口が急激かつ大幅に減少したため、地域社会の機能が低下し、住民が一定の生活水準を維持することが困難になった状態をいい、単に人口密度が極度に低い状態だけでは過疎とはいいいません。次に、法律の目的であります、人口の著しい減少に伴って、地域社会における活力が低下し、生産機能及び生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にある地域において、総合的かつ計画的な対策を実現するために必要な措置を講ずることにより、これらの地域の自立促進を図り、もって住民福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正及び美しく風格ある国土の形成に寄与することと定められております。一方、市長は一般質問の答弁でも、過疎債を有利な起債との考えを絶えず示されておりますが、今回提案された過疎計画にも有利な起債という市長の考えそのものを描いた事業計画が示されております。南丹市は過疎地域とみなされる市町村の指定を受け、議会で市町村計画を審査しましたが、過疎指定の条件には人口要件、財政力要件があり、人口要件に当てはまるのは、合併前から過疎指定されていた美山・日吉町で、両町の人口減少と広大な面積によって、南丹市がみなし過疎地域に指定されたものであります。以上のことからすると、過疎法が示す目的に沿い、日吉・美山地域が過疎から脱却できるハード・ソフト事業を優先し、全体の底上げにつながる過疎計画が求められるにもかかわらず、豊かな自然を活かす観光産業による入りこみ客の増加に繋がる施策、多様化するライフスタイルから増加する田舎暮らしを受け入れる施策などの具体策が盛り込まれておりません。

さらに本計画の参考資料を財源ベースに見ますと、園部22%、八木16%、日吉14%、美山32%、全体が16%となります。旧町から計画されている野畑大橋線は1億3,000万円から500万円に減額、小畑線・海老谷線の改良も大幅に遅れ、美山町は高率になっていますが、後年度への先送り施策で過疎の要件を満たしている日吉・美山地域への過疎対策が減少しております。本町佛大線をはじめとする都市計画区域での街路事業に充当予定している道路事業は市町村道路改良事業費全体の43.2%を占めております。都市計画区域の道路改良が過疎地域の利便性に直接結びつくものであれば、当然、過疎計画の中に組み込む必要があります。委員会で担当部長の説明からは有利な財源充当以外、聞こえてくるものは遠い将来の効果などで、あいまいで示すべき過疎からの脱却効果は示されませんでした。後期計画で過疎債を充当した事業を委員会で現地検証しましたが、園部・八木地域では、集落道路の整備にまで過疎債の充当が見られました。日吉町、美山町は過疎債による上下水道、教育、医療施設の整備が進みましたが、遅れている道路整備、基幹産業である農林業の低迷、豊かな観光資源を活かした観光産業の構築、底冷えに苦しむ中小零細企業の活性化策や医療・介護・交通弱者対策など、多くの課題が山積しております。市長は日頃、過疎債は有利な起債と言われておりますが、全く市長の答弁どおりの有利な起債を充当する計画が多く、日吉町、美山町のみならず、南丹市の底上げには繋がりません。過疎法とは全く性格の異なる都計法に基づく地域への財源充当が目に見え内容となっております。充当率100%の過疎債に

９５％の合併特例債、いずれも交付税措置は７０％程度あります。財源としては大きな差はないことから、財源充当を目的とする過疎計画ではなく、直接的に過疎地域の活性化に繋がり、過疎からの脱却を目指す施策を求めます。以上のことから実施にあたっては、本来の過疎地域が生き残る施策を優先的に実施し、余裕のある部分を園部・八木地域の事業費として充当することを求めます。

議案となっている南丹市過疎地域自立促進市町村計画の内容は、本来の過疎地域が過疎から脱却を目指した文言で整理をされております。計画された内容を達成する事業として、何をすればよいのか、効果はどうかなどを検討する中で具体的な事業計画の立案を要請しておきます。

このようなことから過疎地域が個性豊かで、魅力的な地域づくりを進める上で過疎債の充当によるまちづくりが重要になります。一方で多額の過疎債を使ったにもかかわらず、人口減少の歯止めがかからなかったのではないかとの声もありましたが、合併後巨額の投資をした園部本町地区の状況はどうでしょうか。人口・店舗も減少し、再開発による活性化が危ぶまれる状況となっております。過疎地域の要件を満たす原因となっている日吉町・美山町は、人口は少ないけれども、面積は南丹市の７５．３％を占めており、厳しい条件であっても森・水・田畑を守り、国民の心の拠りどころとなる国土と環境を次代に引き継ごうと努力をしております。財源不足から都市計画の実行に過疎債を充当することなく、本来の過疎地域の活性化を目指し、訪れる人に夢を、暮らす人に潤いを与えることで人口減少が進むまちづくりの先駆的な事業実施を模索していただきたいと考えております。事業計画が添付されておりますので、対案の計画書を作成するか、議案に反対するのが本意ですけれども、本計画の設定が条件となっていることから、すべてを否定することになりますので、問題点を指摘することにとどめ、賛成の討論いたします。

○議長（井尻 治君） ほかに討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（井尻 治君） 討論ないようでございますので、討論を終結いたします。

これより順次、採決いたします。

まず、議案第６８号を起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は、原案可決であります。

本案、委員長報告のとおり決することに、賛成者の起立を求めます。

（起立全員）

○議長（井尻 治君） 起立全員であります。

よって、本案は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第６９号から議案第７５号まで、平成２２年度補正予算７件を一括して、起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は、原案可決であります。

本案、委員長報告のとおり決することに、賛成者の起立を求めます。

(起立全員)

○議長(井尻 治君) 起立全員であります。

よって、本案は、委員長報告のとおり可決されました。

日程第2 議案第86号

○議長(井尻 治君) 日程第2、議案第86号を議題といたします。

提案者から提案理由の説明を求めます。

佐々木市長。

○市長(佐々木 稔納君) おはようございます。それでは、ただいま上程いただきました議案につきましてご説明を申し上げます。

議案第86号、固定資産評価員の選任についてであります。平成21年7月28日から南丹市固定資産評価員としてお世話になってまいりました岸上吉治氏が、本年6月30日をもって副市長を退任されました。そういった状況の中で、年々、複雑・多様化する税務行政に対応し、従来と変わらず固定資産の適正な評価を行うため、新たに副市長の松田清孝君を固定資産評価員に選任いたしたいので、議会の同意を求めようとするものであります。

何とぞご審議をいただき、ご同意を賜りますようお願いを申し上げます。

○議長(井尻 治君) 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑の通告はありません。

特に質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(井尻 治君) 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第86号については、人事に関するものでありますので、委員会付託及び討論を省略の上、ただちに採決に入りたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(井尻 治君) 異議なしと認めます。

よって、委員会付託及び討論を省略の上、ただちに採決に入ることに決定いたしました。

これより採決をいたします。

本案は、原案のとおり同意することに、賛成者の起立を求めます。

(起立全員)

○議長(井尻 治君) 起立全員であります。

よって、本案は、原案のとおり同意されました。

日程第3 意見書案について

○議長（井尻 治君） 次に、日程第3「意見書案について」を議題といたします。

事務局長に件名を朗読させます。

事務局長。

○事務局長（勝山 秀良君） 件名を朗読いたします。

市町村合併にともなう流域下水道移管に関する制度改正を求める意見書案。

以上であります。

○議長（井尻 治君） ただいまの件名の朗読で、議案の内容はご承知願えたものと思います。

この際、特に質疑ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（井尻 治君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論の通告はありません。

特に討論ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（井尻 治君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

それでは、市町村合併にともなう流域下水道移管に関する制度改正を求める意見書案を起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成者の起立を求めます。

（起立全員）

○議長（井尻 治君） 起立全員であります。

よって、本案は、原案のとおり可決されました。

ただいま可決されました意見書の字句等の整理については、議長に一任願います。

日程第4 閉会中の継続審査並びに調査申出について

○議長（井尻 治君） 次に、日程第4「閉会中の継続審査並びに調査申出について」を議題といたします。

会議規則第104条の規定により、お手元配布の文書のとおり閉会中の継続審査並びに調査の申し出があります。各常任委員長、議会運営委員長及び決算特別委員長からの申し出のとおり、取り計らうことにいたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（井尻 治君） 異議なしと認め、さよう決します。

日程第5 議員の派遣について

人権擁護委員候補者の推薦について

○議長（井尻 治君） 次に、日程第5「議員の派遣について」を議題といたします。

本件については会議規則第160条の規定により、お手元に配布のとおり、京都府市議会議長会定期総会に副議長を派遣することといたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（井尻 治君） 異議なしと認め、さよう決します。

次に、「人権擁護委員候補者の推薦について」、市長より、人権擁護委員法第6条第3項の規定により、お手元に配布のとおり、同委員候補者の推薦にあたり議会の意見を求められております。本件については異議がないとの意見を述べることにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（井尻 治君） 異議がないようでございますので、さよう取り計らいをいたします。

○議長（井尻 治君） 以上をもちまして、本日の日程は、すべて終了いたしました。

今期定例会に付議されました事件は、すべて議了いたしました。

これにて本日の会議を閉じ、平成22年第3回南丹市議会9月定例会を閉会いたします。

大変ご苦労でございました。

午前10時35分閉会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

平成 年 月 日

南丹市議会議長 井 尻 治

南丹市議会議員 林 茂

南丹市議会議員 矢 野 康 弘